

◆ 八王子都税事務所長賞 ◆

「税の大切さ」

青梅市立吹上中学校 3年 安武 里紗

二〇一一年三月十一日、三陸沖の宮城県牡鹿半島で最大震度七を観測する大地震が発生しました。東日本大震災とよばれたこの地震は、最大潮位九メートル以上の大規模な津波も記録され、二万人近くの方が亡くなりました。そのため、宮城県では避難した人への水・食料の手配や、企業活動の再開と継続するための支援などを行っています。宮城県だけでなく、他県でもこのような取り組みを行っています。みなさんはこれらの復興事業に、私たちが払った税金が使われていることを知っていますか。

まずはじめに、「税金」とは、国や都道府県、市町村などが公共の仕事をするために人びとから集めるお金です。国民には税金を納める義務があり、個人や会社などがさまざまなかたちで納めています。たとえば、「消費税」も税金のひとつです。私たちが何かを買うときに払っている税金は、東日本大震災のような大きな災害にも使われているということです。私はそのことを初めて聞いたとき、税金はとても大切なものであり、人を助けることができるのだと感じました。隠れて税金を払わない人もいますが、誰かを助けることができるとすると、とても嬉しく思います。

このように、私たちが国に納めている税金は、まちの復興のために使われたり、道路をつくるなどといった公共事業に使われています。他にも、払った税金は教育に使われたり、社会保障に使われたり、安全な食品を作るための農業・漁業の支援にも使われています。中学生の私たちもいろいろなところで税金に関わっているので、税金を大切にしていきたいと思います。

私たちが生きている社会には、経済成長の停滞、新型コロナウイルス、少子高齢化、雇用環境の変化など、さまざまな課題があります。いずれも個人の力だけでは解決できない問題であり、財政が果たさなければいけません。税収が増えない中で財源の確保にはとても慎重な検討が必要です。

このような多岐にわたる課題がある中で、税金のあり方に興味を持つことは、将来の日本をどのように発展させていくのか、より豊かにしていくのか考えることにつながると、私は思います。これからの社会は、私たちの世代が中心となり、物事を進めていきます。日本だけではなく、世界中の誰もが安全で、安心して生活できる幸せな社会をつくるため、税金のありがたみについて考え、関心を持って生活したいと思います。また、自分の得のために、税を払わずにいるのではなく、社会のために感謝して税金を払いたいと思います。国民が力を合わせ、二十一世紀の社会をつくっていきましょう。